

6-25 九州地方の地殻変動

Crustal Movements in the Kyushu District

国土地理院
Geographical Survey Institute

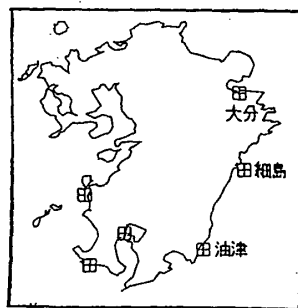
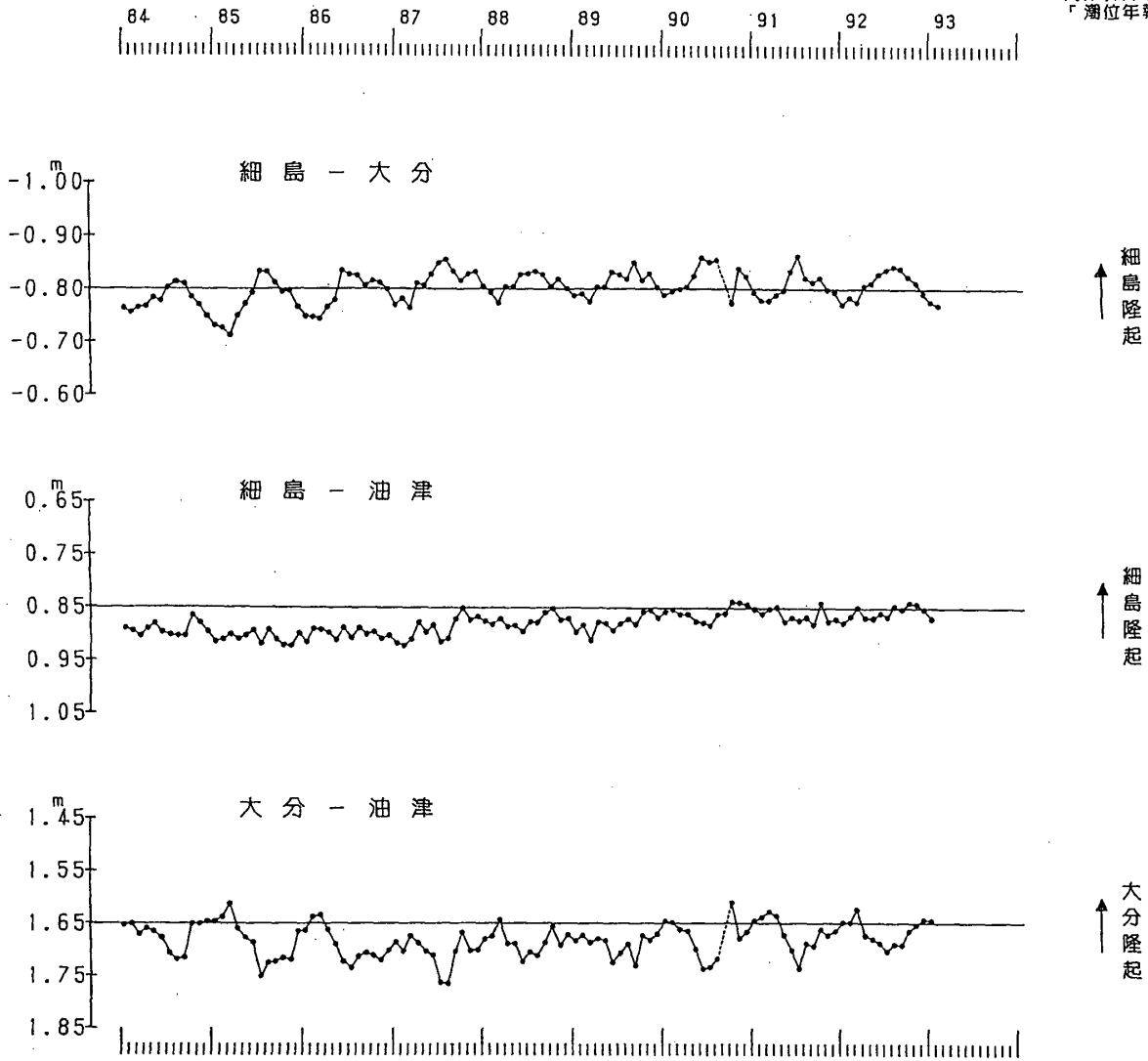
第1図は、細島、大分、油津間の月平均潮位差である。特に目立った変動はない。第2図は、鹿児島と阿久根、枕崎、油津験潮場間の月平均潮位差である。鹿児島は依然として沈降を続けており、桜島の火山活動を反映しているものと思われる。第3図は、島原半島周辺の験潮場間の月平均潮位差である。口之津と多比良が1989年から1990年にかけて三角、大浦に対して隆起し、その後反転して沈降傾向にある。これは、雲仙岳の火山活動に関連した変動であると考えられる。

第4図は、雲仙岳周辺で実施しているGPS連続観測結果である。特に目立った変動はない。なお、第49巻において報告したGPS測量による雲仙岳周辺の水平歪を、第5、6図のとおり訂正する。

参 考 文 献

- 1) 国土地理院：九州・沖縄地方の地殻変動，連絡会報，**47**（1992），436-442.
- 2) 国土地理院：九州地方の地殻変動，連絡会報，**48**（1992），436-454.
- 3) 国土地理院：九州地方の地殻変動，連絡会報，**49**（1993），527-541.

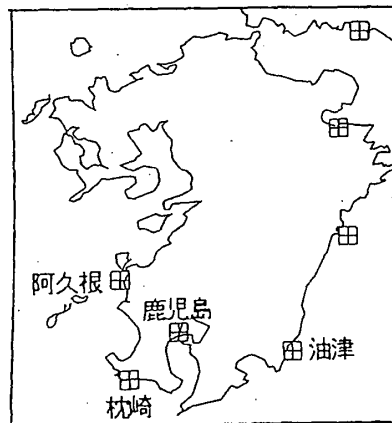
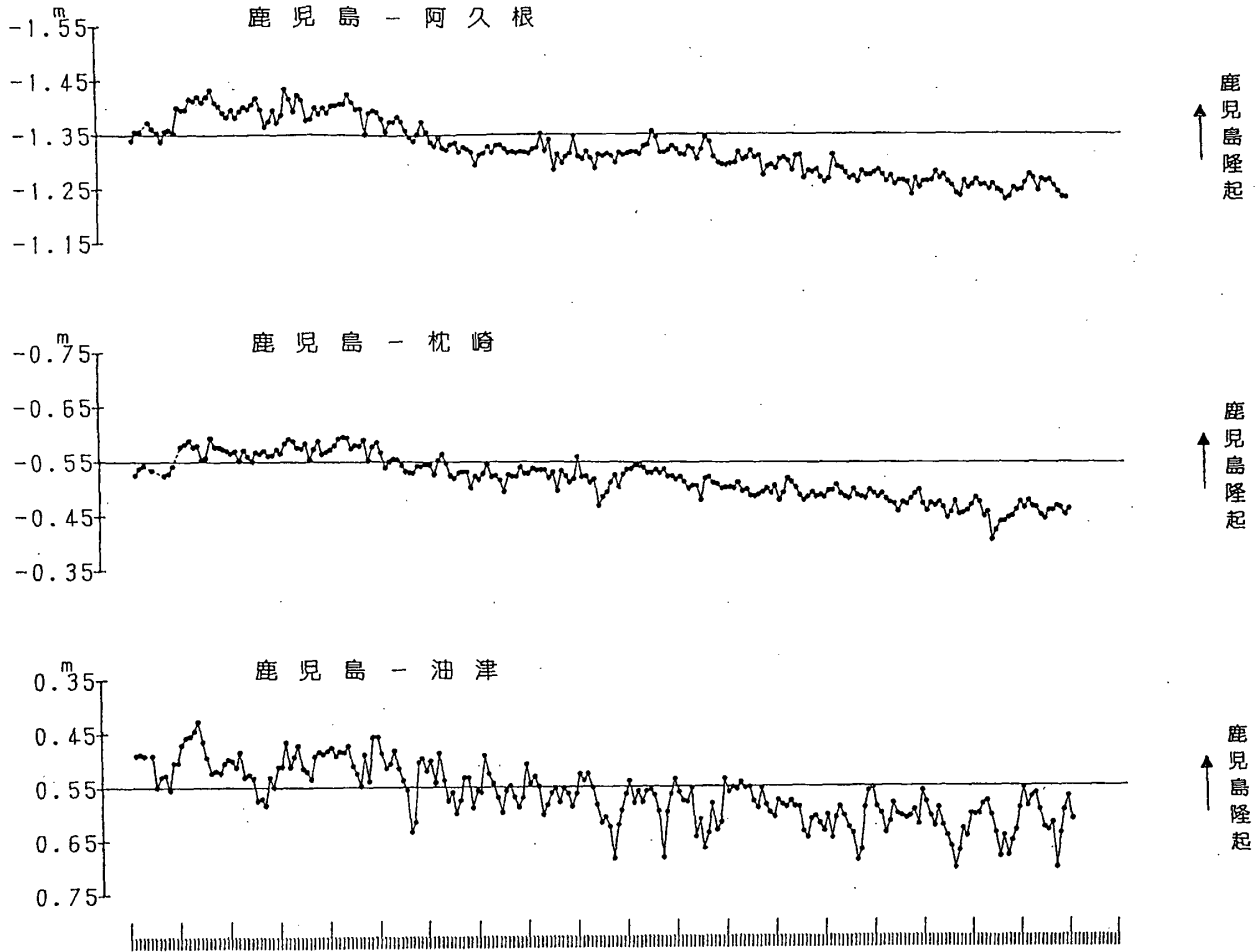
海岸昇降検知センター
「潮位年報」による。



第1図 細島, 大分, 油津験潮場間の月平均潮位差

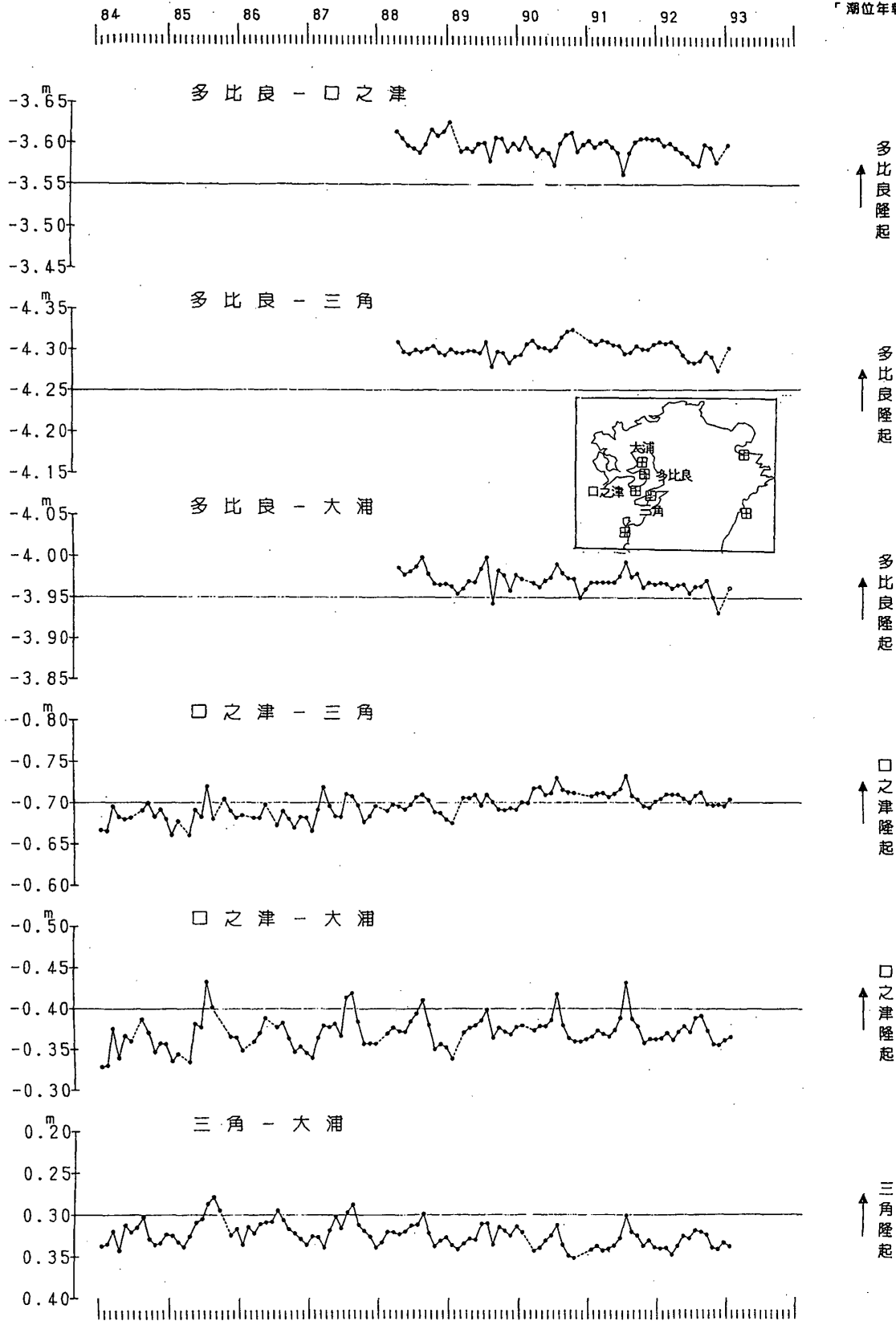
Fig.1 Differences in monthly mean sea levels between the Hosojima, Oita and Aburatsu tide stations.

74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93



第2図 鹿児島と阿久根，枕崎，油津験潮場間の月平均潮位差

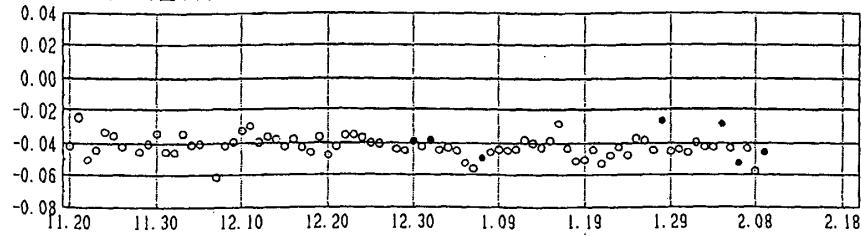
Fig.2 Differences in monthly mean sea levels between the Kagoshima, Akune, Makurazaki and Aburatsu tide stations.



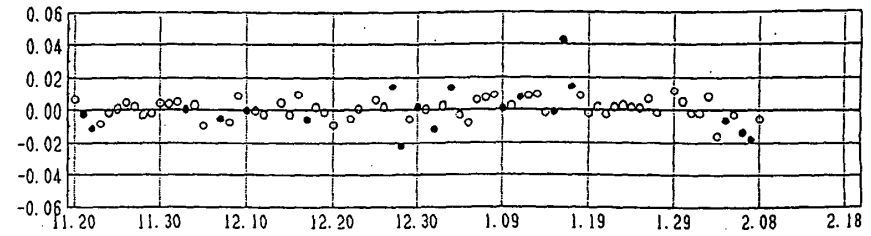
第3図 島原半島周辺の験潮場間の月平均潮位差

Fig.3 Differences in monthly mean sea levels between the pairs of tide stations in and around the Shimabara peninsula.

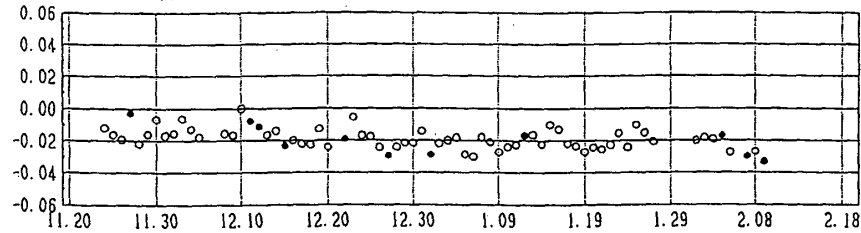
仁田峠-磯石 (基準値 5240.320 : 1目盛2cm)



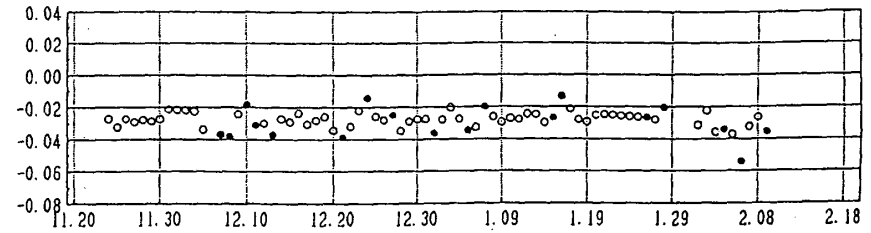
九大-磯石 (基準値 5521.790 : 1目盛2cm)



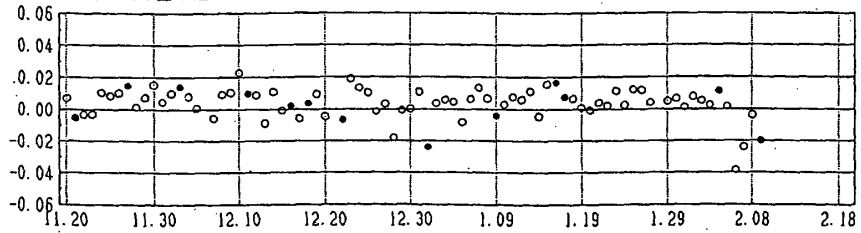
仁田峠-折橋 (基準値 6519.110 : 1目盛2cm)



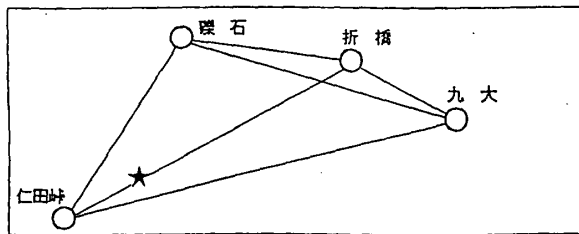
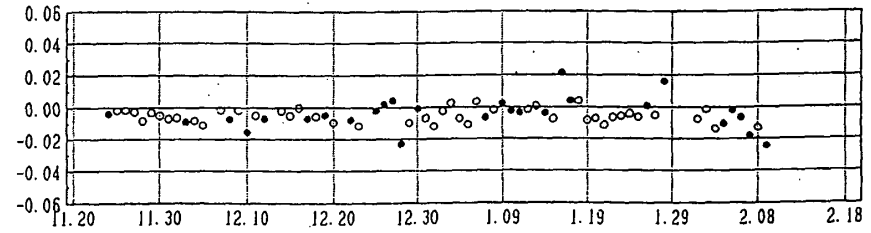
磯石-折橋 (基準値 3011.440 : 1目盛2cm)



仁田峠-九大 (基準値 7609.540 : 1目盛2cm)



九大-折橋 (基準値 2629.140 : 1目盛2cm)



(最終観測 2月9日 12時 - 14時)

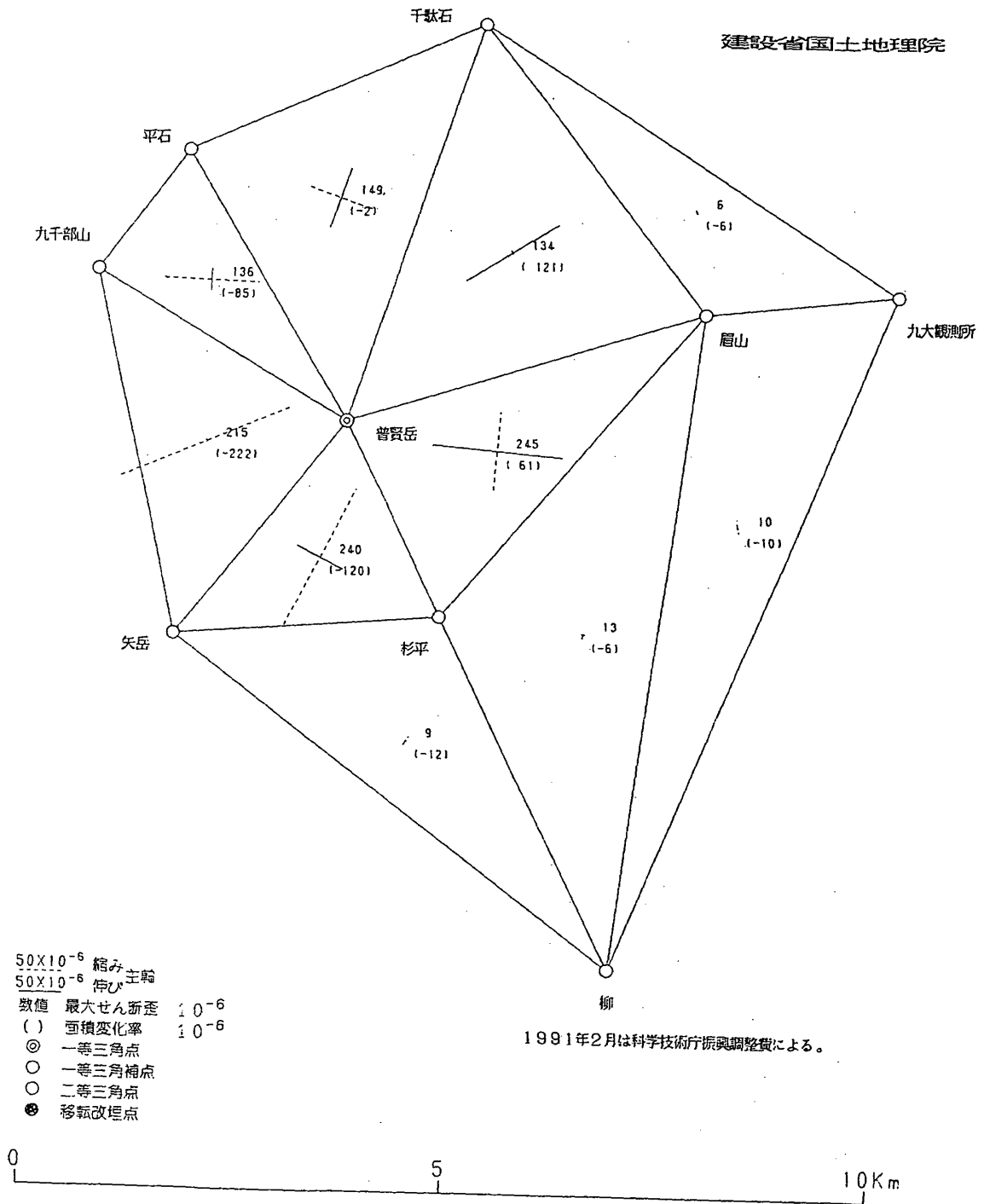
○ RMSが制限内 ● RMSが制限外

第4図 雲仙岳周辺におけるGPSによる地殻変動連続観測

Fig.4 Crustal movement monitoring by GPS around Unzendake.

1992.09 — 1991.02

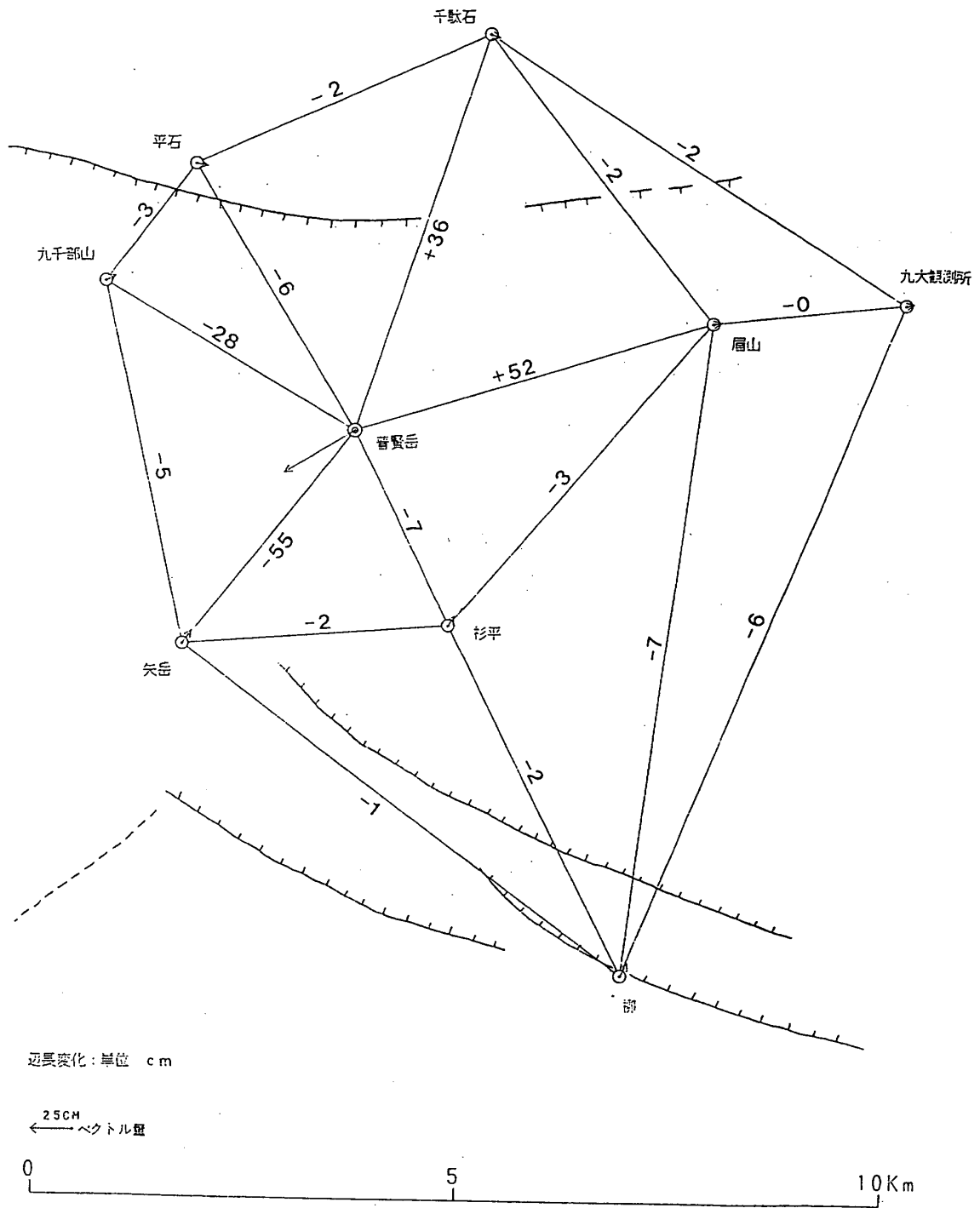
建設省国土地理院



第5図 GPS測量による雲仙岳周辺の水平歪(訂正)

Fig.5 Horizontal strains by GPS around Unzendake (corrected).

1992.09 ————— 1991.02



第6図 GPS測量による雲仙岳周辺の辺長変化及び水平変動(訂正)

Fig.6 Change of side lengths and horizontal displacements by GPS around Unzendake (corrected).